



無借金企業として安定成長へ

佐々木光男・ササキセルム（株）社長



会社概要

- 業務内容 婦人服地卸、アパレル製造
- 設 立 1968年
- 最新年商 70億6000万円
- 従 業 員 69名
- 本 社 愛知県一宮市せんい2-9-16

尾州産地を代表する産元問屋、いわゆるコンバーターで、佐々木さんは協同組合一宮繊維卸センターの理事長を務めるほか、一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）の理事など多くの要職に就いている、文字どおり産地リーダーの一人である。

同社は尾州産地では数少ない無借金経営の優良企業で知られている。この点に関して佐々木さんは「売上至上主義よりも、利益重視の方針を堅持している」と説明しているが、前2002年12期でも販売費及び一般管理費を前期比で9.3%も減少させている。卓越した経営手腕である。

前期の売上高は70億6000万円で、生地74.5%、アパレル25.5%の構成。主力の生地の内訳（全売上比率）はウール服地26.6%、合繊服地32.9%、綿麻シルク服地8.3%、ニット服地6.6%で、この内綿麻シルク服地は前年比19.6%もの増収となった。

主力の服地部門について佐々木さんは「ウールはもちろん尾州産地物が中心であるが、合繊服地の一部も尾州物であり、産地と共という姿勢に変わりはない。綿麻などの複合素材は産地間ミックスが多い」と語り、複合素材の内容については例えば①富士吉田で製織し、尾州で整理②北陸で製織し、富士吉田で整理、など具体的に説明する。

製品事業はOEM展開である。この基本は「生地での売買をベースに要請があったものに関して中国で縫製して納入する」というもの。取引先はアパレル各社の有名ブランドで、現反はササキセルムオリジナルを中国に持ち込んでいる。こうした中国関連のオペレーションは約20億円の規模に達している。

同社の中国関連の取組は2003年、大きく前進する。今年2月に中国製生地の輸入を主業務とする関連会社「コスモインターナショナル」を設立、初年度5億円強の目標を設定した。ここにササキセルム本体の企画力を加味して、コストと品質を併せ追求するシステムを構築した。「現地で生産されるシルクやカシミヤなど天然繊維の良いものをQRで対応、リーズナブルプライスで供給する」と佐々木さんは手の内を語る。

今年は欧州への生地輸出にも「日本の個性」を武器に本格的に取組む。

